

こんなふうに生きてみよう...

ちょっとした
ことから

ジョバンニ(ブラジル)

ぼくの学校のクラスは40人以上いるので、みんなと知り合いになることはむずかしい。でもクラスメートを愛するために、ぼくはちょっとしたことから始めてみようと思ひました。「おはよう。」と挨拶することです。ただ形式的に挨拶するのではなく、相手が愛されたと感じるようにしました。

とてもおもしろかった! 何も変わらないように見えたのですが、少しずつですが、最初は名前も知らなかったクラスメートから、「君が『おはよう』といってくれるのがとてもうれしいんだ。君だけがぼくにそう接してくれるからだよ。」と言われました。他のクラスメートは「君の挨拶を聞くと一日が気持ち良くなるので、その理由で学校に来ることもあるよ。」と言いました。

今ではクラスメートをずっとよく知ることができました。こんなちょっとしたことがぼく自身の生活もクラスメートのも変えることができたのです。

いのちの言葉 | 01

イエスは「水を飲ませてください。」と言われた。

(ヨハネ 4,7)

イエスはある村で井戸のそばに腰を下ろされました。のどが渇いていました。イエスはサマリアの女に「水を飲ませてください」と頼みます。それは、当時の男性と女性、ユダヤ人とサマリア人との関係を考えると、慣習に相反する行為でした。

イエスはさまざまな思惑にとらわれず、彼女と会話を始められます。相手の心の中に入ることを望み、「水を飲ませてください」と願われます。

「キリスト教一致祈禱週間」(1月18-25日)は、長年にわたり諸教会の間で続いている分裂について、私たちの意識を呼び覚まします。

あらゆる壁を早急に乗り越え、深い交わりに至ることができるよう、私たちが招いています。

学校でもいろいろなやり方や形式の違いを乗り越えて、ちょっとした気配りや理解、助けを求める相手に耳を傾けることはできないでしょうか。文化的、宗教的、社会的に異なった背景を持つ相手の中にも、イエスが隠れておられ、私たちに頼んでおられます。

人との間で壁となるものがあるかどうか立ち止まって考えてみる

イエスがなさったように、私たちも互いの違いや偏見を乗り越えて、相手に心を開くことができないでしょうか？

何かを必要としている人、失業中の人、孤独な人、外国人、信念や宗教的信条を異にする人、たとえ敵であったとしても、私たちはその人たちの中に「渴く」、「水を飲ませてください」とおっしゃるイエスの姿を見ることができます。

一杯の水を差し出すだけでも必ず報いを受けると福音が言うように、それは再び兄弟愛を立て直す対話につながっていきます。

自分が出会っている難しい状況を分かち合ってみる。